

## 福井県に「『もんじゅ』を止めて」の要望書を提出(5月18日) 「制御棒操作を途中で立ち止まったのは安全側」?! - 詭弁を弄する安全対策課長

5月18日に福井県に「『もんじゅ』を止めてください」と要望書を提出しました。要望書は関西一円から32団体で提出しました。反原発団体だけでなく、生協や母親の会等多彩な団体が提出団体となりました。多くの人たちが「もんじゅ」を心配していることを示しています。

午後1時から約45分間、福井県庁で安全対策課の新しい課長となった岩永課長に申し入れをしました。福井から1名と関西から5名が参加しました。課長は、制御棒の操作方法を知らなかったことについて、「操作を途中で立ち止まったのは安全側」などと発言しました。これにはみんなあきれて「操作を停止したのではなく、操作方法を知らなかったから制御棒が挿入途中で停止したのでしょうか」と反論しました。全くの詭弁です。

また、この間の警報装置のトラブルについて課長は、「こういうことだったと思う」と推論を繰り返しました。原子力機構から正式な報告を受けているのですかと尋ねると、なんと報告は受けていないということでした。そのため、正式な報告を求めて、県として専門委員会等を開いて検討してほしいと要請しました。課長は、放射性漏えい検出器の故障や制御棒操作については報告がくるだろう、それについては検討するとのことでしたが、専門委員会は7月に炉心確認試験が終了してからになるだろうと答えるだけでした。課長の対応は、安全性を重視してきたこれまでの福井県の姿勢から大きく後退していると感じました。(J)



### トラブル続きの「もんじゅ」はもう動かさないで

5月6日に運転再開した「もんじゅ」は、まるで「動かたくない!」と言っているかのようにトラブルが続出しています。

運転再開した当日の6日夜から7日にかけて、燃料漏れ検出器の警報が6回も鳴り、3台ある同じタイプの検出器の2台が故障してしまいました。8日には原子炉が臨界に達した後に、1次冷却材配管の温度上昇の警報が鳴りました。10日午後1時までの24時間ではなんと、75回も警報が鳴り響きました。施設内の色々な所でさまざまな警報が連日、次々と鳴り続けている状態です。しかし、警報のほとんどを誤報や警報のテストが原因と片付け、運転を続けています。

10日には制御棒がちゃんと挿入できないということも起きています。運転員は制御棒の基本操作を知らず、運転手順書にも必要な操作内容が書かれていなかったとのことでした。このままでは緊急事態が起きても止めることができなくなります。

今の「もんじゅ」の状態は自動車に例えると、整備不良のままブレーキの基本操作も知らない無免許のドライバーが運転しているのと同じです。こんな自動車の運転は許されません。自動車では許されないことが、猛毒のプルトニウムが燃料の「もんじゅ」で起きています。これでは彼らは何を扱っているのか分かっていないとしか思えません。「何かトラブルがあったら立ち止まる勇気を持ち、安全第一に」と原子力機構の理事長は運転再開の時、記者会見で言っていました。これほど多くのトラブルが起きた今、言葉通りに立ち止まるべきです。今すぐ「もんじゅ」の運転をやめてください。(T)